

## 長崎市街地および土地利用の変遷について

## &lt;近代化に伴う埋立地(市街地)の拡大・産業施設による水際線の占拠&gt;

- ・ 明治以前は、中島川の船運が庶民の生活を支え、水辺に近かった関係が、近代化～戦後復興の流れの中で埋立てが進行し、市街地が拡大してきた。
- ・ その結果、水際空間は、産業施設が占める形となり、水辺と市民生活の関係がいつの間にか、薄れてしまった。

## &lt;「ナガサキ アーバン ルネサンス2001構想」の流れ&gt;

- ・ 高度経済成長に伴い、特に水際線に立地していた造船所関係施設、倉庫群、漁業関係施設等の1次～2次産業施設は、20世紀後半からの産業構造の転換が求められるようになった(ナガサキ アーバン ルネサンス2001構想)。
- ・ その成果として、「水辺の森公園」「出島ワーフ」等水際線の空間が、市民生活により近い施設に生まれ変わってきている。
- ・ つまり、以前の施設群が、長崎の産業を支えてきた施設である反面、市民には背を向けて閉ざした空間であり、市民は気軽に水際に立ち寄りなかつた。

## &lt; 長崎駅周辺エリアの基本的な方向性 &gt;

- ・ ナガサキ アーバン ルネサンス2001以降の取り組みによって、市民は気軽に水際に立ち寄れるようになつた。
- ・ 長崎駅もその延長線上として、「街と水辺の関係を大切にすることが基本的な方向性であり、その流れ(市街地の歴史)を生かした空間デザインを「心得」の基本とする。

## 長崎市街地の変遷

- 江戸中期(1700年代)
  - ・ 1698年 長崎大火(五島町・大黒町)
- 幕末期(1850年頃)
  - ・ 安政4年(1857) 幕府が東山手居留地を造成開始(番所廃止・大浦/御崎道)
  - ・ 万延元年(1859) 第1次外国人居留地造成工事完成(南瀬崎～大浦～下がり松)
  - ・ 文久3年(1863) 第3次外国人居留地造成工事完成(大浦四号波止(現・水辺の森公園)、海岸通り拡幅(大浦バンド形成))
- 明治2～4年(居留地建設)
  - ・ 明治3年(1870) 日本最初の西洋式旅館(ホテル)や娯楽施設、大浦海岸通りに開業
- 明治25年頃(中島川変流工事)
  - ・ 明治17～22年(1884～1889) 第1次長崎港港湾改修事業(中島川変流工事)
  - ・ 大浦バンド(海岸通り)
- 明治37年頃(長崎駅周辺埋立)
  - ・ 明治30～37年(1897～1904) 第2次長崎港港湾改修事業(出島の内陸化、長崎駅周辺埋立(旧台場跡陸軍用地)、市街地の北部拡大(浦上地区との連結)、五島町付近海岸線の埋立(浦上街道整備(現国道206号)、十間運河東西埋立(現JR駅ヤード、平戸小屋埋立(現・三菱重工用地))

- ・ 明治32年(1899)外国人居留地 廃止 / 要塞地帯法公布(終戦まで市街地全域が機密扱いとなる)
- ・ 明治37年(1904)日露戦争
- ・ 明治37年(1904)香港上海銀行長崎支店オープン
- ・ 明治38年(1905)九州鉄道開通・長崎駅(仮駅舎建設)
- ・ 明治39年(1906)稲佐橋架設

## 6. 昭和初期(出島・元船岸壁建設)

- ・ 大正4年(1915) 長崎電気軌道(路面電車) 開業(現・大学病院前～築町間)
- ・ 大正8年(1919) 長崎電気軌道(長崎駅前～桜町間 開通 / 人力車の廃業)
- ・ 大正12年(1923) 長崎～上海間定期航路「長崎丸」就航
- ・ 大正13年(1924) 出島岸壁完成
- ・ 大正14年(1925) 港内連絡線「電鉄丸」就航(長崎電鉄)

- ・ 昭和2年(1927) 元船岸壁(出島岸壁北側)完成 / 8,000t級船舶着岸可能となる
- ・ 昭和3年(1929) 出島町に長崎税関 開庁(現・長崎市立市民病院)
- ・ 昭和5年(1930) 臨港鉄道敷設、長崎港駅オープン・日華連絡船(長崎県上海市)
- ・ 昭和8年(1933) 長崎税関跡地に移民収容所設置(現・長崎市立市民病院)
- ・ 昭和12年(1937) 日中戦争勃発(上海からの日本人引上げ)

## 7. 戦後復興

- ・ 昭和21年(1946) 長崎電気軌道(長崎駅前～浦上駅前間復旧)
- ・ 昭和23年(1948) 長崎市立市民病院 誕生
- ・ 昭和30年(1955) 銅座川埋立(区画整理事業)
- ・ 十間運河埋立(宝町交差点付近 / 現・国道206号、長崎電気軌道線路)

- ・ 昭和45年(1970) 長崎郵便局移転、長崎中央郵便局に昇格(現・恵美須町)
- ・ 昭和57年(1982) 長崎大水害

## 8. 2001年～

- ・ 平成16年(2004) ながさき出島道路 開通
- ・ 平成17年(2005) 水辺の森公園 完成
- ・ 平成17年(2005) 長崎県美術館 開館
- ・ 平成17年(2005) ながさき女神大橋 完成
- ・ 平成22年(2010) 長崎港松が枝国際ターミナル 完成

出典資料・「長崎港の海岸線の変遷」長崎経済同友会

「長崎港の埋立と近代都市の形成」1992年・「長崎市の近代都市形成と道路網の整備」1990年 岡林 隆敏 長崎大学名誉教授

「長崎港の整備前後の比較写真」長崎県

ナガサキ・アーバン・ルネサンス2001構想 長崎県

長崎港港湾史報告書(H9.10年) 長崎県

環長崎港地域アーバンデザインシステム 長崎県

長崎港 海岸線の移り変わり



長崎港 海岸線の移り変わり



長崎港 海岸線の移り変わり

- 江戸時代中期  
- 1700年代
- 幕末時代  
- 1850年頃
- 明治2・3年頃  
- 居留地建設
- 明治25年頃  
- 中島川（江戸町付近）変流工事
- 明治37年頃  
- 長崎駅周辺埋立
- 昭和初期  
- 出島・元船岸壁建設
- 現在の海岸線  
- アーバンルネッサンス2001埋立地
- 全てを重ねる



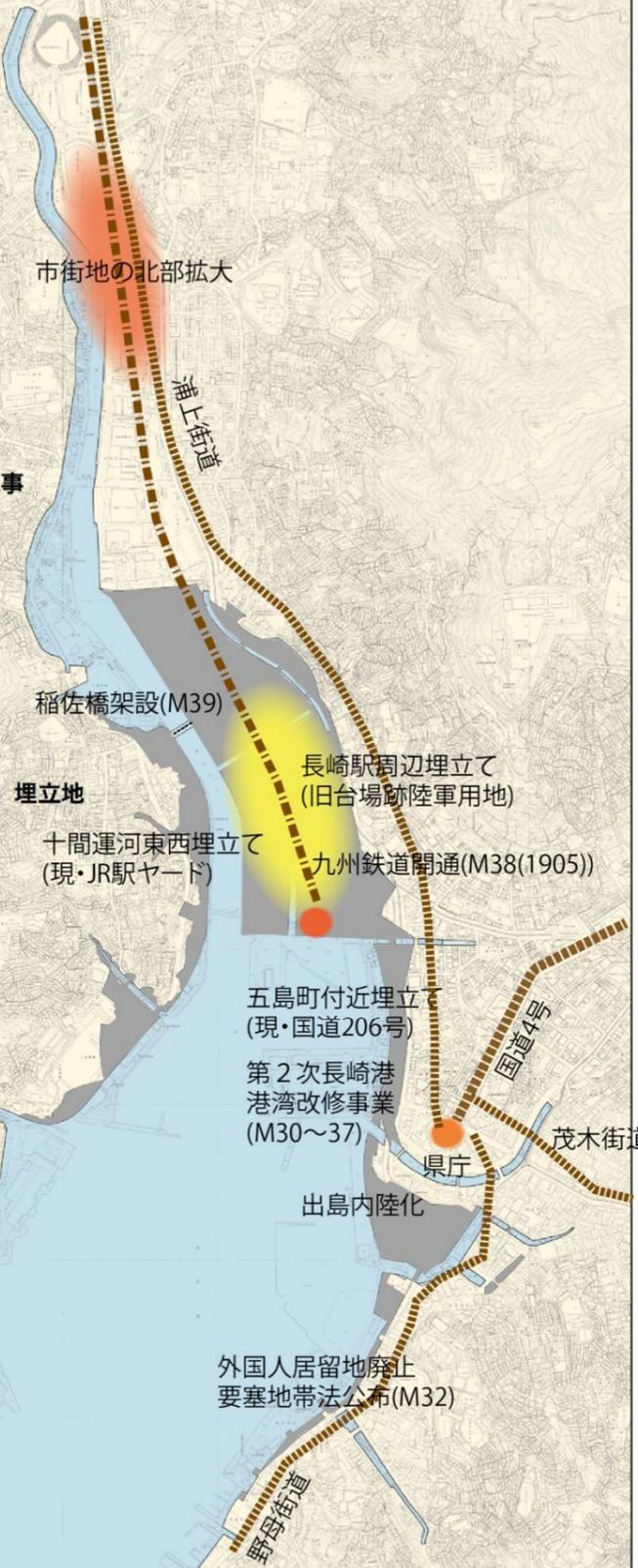
長崎港 海岸線の移り変わり

- 江戸時代中期  
- 1700年代
- 幕末時代  
- 1850年頃
- 明治2・3年頃  
- 居留地建設
- 明治25年頃  
- 中島川（江戸町付近）変流工事
- 明治37年頃  
- 長崎駅周辺埋立
- 昭和初期  
- 出島・元船岸壁建設
- 現在の海岸線  
- アーバンルネッサンス2001埋立地
- 全てを重ねる



長崎港 海岸線の移り変わり

- 江戸時代中期  
- 1700年代
- 幕末時代  
- 1850年頃
- 明治2・3年頃  
- 居留地建設
- 明治25年頃  
- 中島川(江戸町付近)変流工事
- 明治37年頃  
- 長崎駅周辺埋立
- 昭和初期  
- 出島・元船岸壁建設
- 現在の海岸線  
- アーバンルネッサンス2001埋立地
- 全てを重ねる



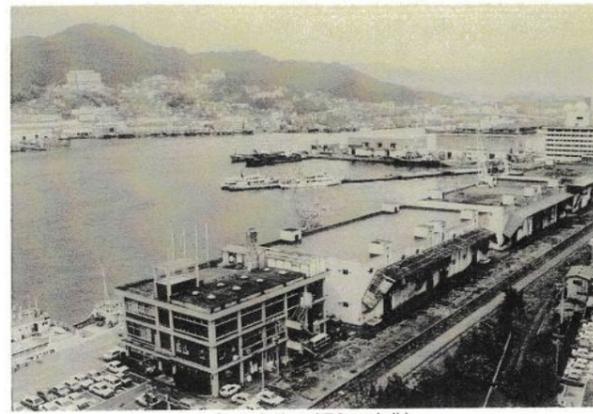
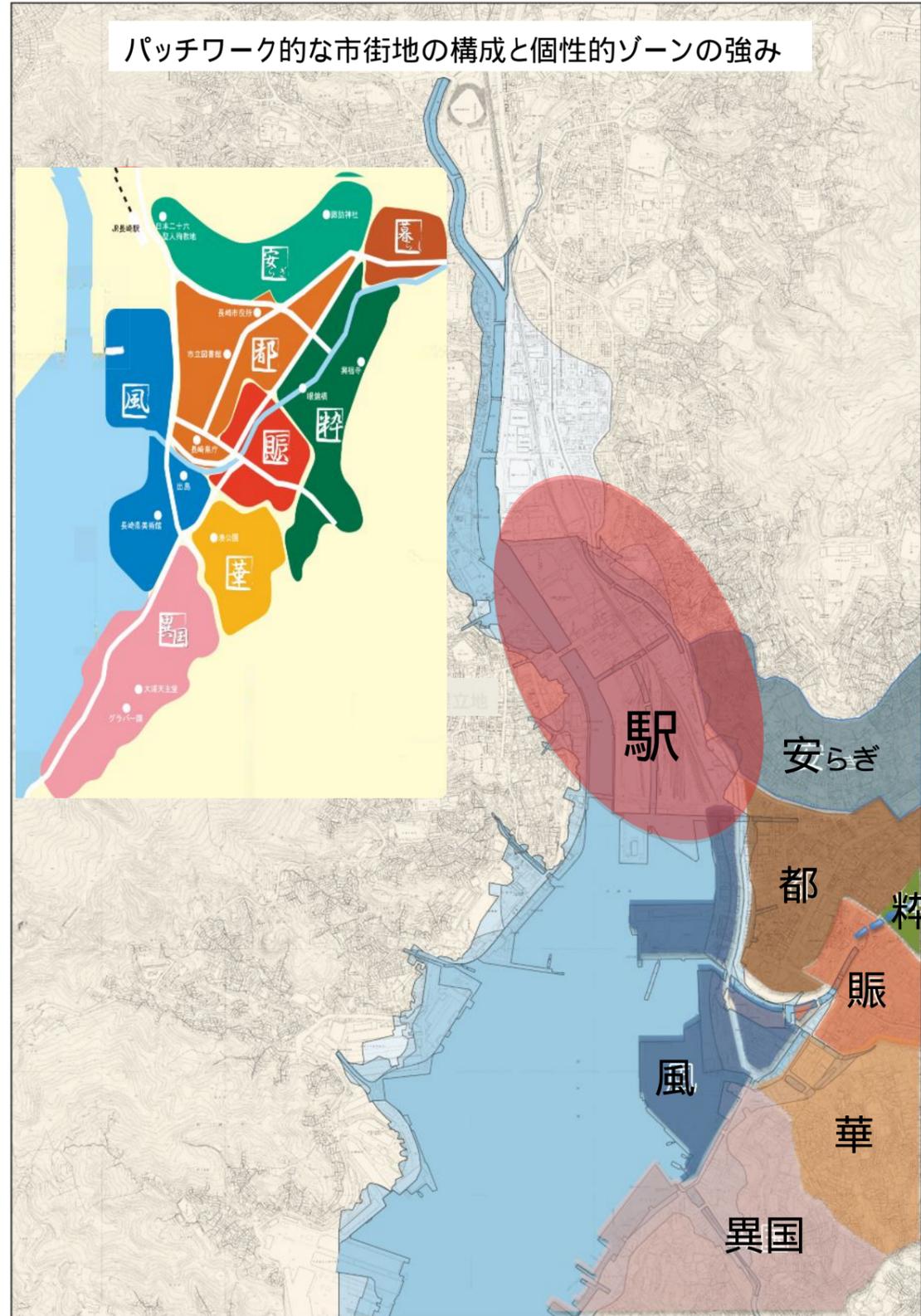
長崎港 海岸線の移り変わり

- 江戸時代中期  
- 1700年代
- 幕末時代  
- 1850年頃
- 明治2・3年頃  
- 居留地建設
- 明治25年頃  
- 中島川(江戸町付近)変流工事
- 明治37年頃  
- 長崎駅周辺埋立
- 昭和初期  
- 出島・元船岸壁建設
- 現在の海岸線  
- アーバンルネッサンス2001埋立地
- 全てを重ねる





まちなか各エリアの個性と駅周辺地区まちづくりの方向性



出島・元船地区 (昭和60年代)



出島地区 (昭和60年代)



出島地区・元船地区 (平成26年度)



出島地区 (平成26年度)

参考：長崎港湾の前後比較  
(昭和60年代 現代)



出島岸壁 (昭和60年代)



出島岸壁 (平成26年度)